



インタビュー 福智町出身 郷土期待の若手力士

藤本悠介さん

Yusuke Fujimoto

年に一度の里帰り 悔しさバネに心機一転

「1年ぶり、やっぱり故郷はいいですね。福智町でただ二人の郷土力士・藤本悠介さん・神崎出身阿武松部屋。11月27日に町内保育所を訪問し、力士にここがこれのまなざしを向ける子どもたちと無心でふれあった。子どもたちにも夢を与え、そして子どもたちからパワーをもらった。藤本力士が1年のうちで実家に帰れるのは、お盆でも正月でもなく、このときだけ。九州場所を終えた後、短くて貴重な3泊4日の里帰りをむかえた。
「勝ち越して帰れず、応援してくれ



プロ入りした3年前、初の帰省での表情。

みなさんに申し訳ないです」。九州場所では2勝5敗と不振に終わった。平成15年に16歳で角界入りして以来、地元では3回とも勝ち越してきた。しかし4回目の年に予期せぬ屈辱を喫した。「肩に力が入って、空回りしている。」「勝とう」という意識が強く、気持ちばかりが前に出てしまっただけで、2つの白星を取り戻した。
「自分の相撲は、押し一本でいくスタイル。体が大きくはないので『二気の攻め』を身につけなければ、上に上がれません。ザンバラ頭のころの、駆け出しの初心に戻ります」と、彼は故郷で気持ち新たに話した。

明徳義塾を経て角界入り 2場所目で序ノ口優勝

稽古の自信は人一倍ある藤本力士。「1つ得て、ほかを失うことなく、得界ですから、やって勝つしかないのです。自分との戦い、ひたすら努力で切り開いていきます」。
彼の力強いコメントを父・壽雄さんに伝えると「負けは負け、言い訳をしないので安心した。商売でも何でも言い訳で逃げていては前進はない。九州

たことを当たり前でできるように」と、地道にコツコツ、ここまでやってきた。朝5時に起き、柔軟体操とテーピング。6時から12時までみっちり稽古に汗を流す。常に問題意識を持って1日もない。角界では先輩や後輩、年齢にかかわらず、食事も風呂もすべて番付順。運悪く番付を落としたりときも彼は率先して後輩の後片付けをした。
「横着をすると自分に帰ってきます。相撲だけではなく、ゴミが落ちていたら拾う気持ちや、あいさつとか、礼儀を重んじる心が必要だと思うのです。そうして藤本力士は、心・技・体を鍛錬し、年々番付を上げた。この九州場所では、幕下東39枚目で土俵に立った。

そんな彼は、小学校4年生のころ、貴闘力関と出会った瞬間から相撲の道を志したという。8人きょうだいの4番目に生まれ、幼いころから父・壽雄さんが経営する米屋（現在の「懐藤食

場所では本人が一番屈辱を味わっている。悠介はやるしかない。今回の経験がきつと糧になる」と期待を込めた。
8人きょうだいの藤本家は、それぞれがスポーツに打ち込み、優秀な成績を残している。特に力士の3つ年上の姉・典子さんは女子アマ選手権で優勝経験を持つゴルフプレイヤー。女子プロ昇格を目前にした姉は、彼にとつて気になる存在だ。互いの活躍もスランプも、あらゆる面で刺激になってきた。
「両親の無言の優しさ、きょうだいの



11月27日に、宝見保育園、方城地区4園、中尾保育所など、たくさんの町内園児たちと交流した。

糧)で米袋をかつき、手伝いながら体を鍛えた。金田小では、クラスで一番体が大きな力自慢。すでにそのころからプロという目標を持って行動してきた。やがて「強い相手の中でまわりたい」と、横綱・朝青龍も育った相撲の強豪・明徳義塾(高知)に中学から入学。3年生の時には全国大会で団体優勝に貢献した。その後、高校に進学したが「強くなるため、プロで徹底的に頑張りたい」と、1年の終業式で退学。糸田町出身の阿武松親方(元関脇・益荒雄)率いる阿武松部屋に入門する。そして、プロの世界に飛び込み、2場所目となる秋場所7戦全勝。見事「序ノ口優勝」を飾った。

こだわってきた正攻法に 勝負強さ加え「挑む年」

身長178cm、体重130kg。力士の大体型に拍車がかかる近年、彼は決



故郷が自分の励みであるように、 子ども達に勇気を与え、故郷の 励みになる姿を土俵で見せたい。



profile 藤本悠介【ふじもと・ゆうすけ】さん (阿武松部屋)

▶郷土期待の若手力士。金田小卒業後、相撲の名門・明徳義塾(高知県)に入学。平成13年度全国都道府県中学選手権で団体優勝。平成15年に同高校を中退し、阿武松部屋に入門する。2場所目に7戦全勝で序ノ口優勝。平成18年九州場所番付、幕下東39枚目。昭和61年、福智町神崎生まれ。20歳。

のがんばりも励みになります。そして故郷の声援がとて心強いです。番付表の出身も金田町から福智町に変わり、さらに多くの人たちが応援してくださっている。そのことを帰ってきて実感しますし、自分の原点であることから、一から出直す気持ちで、ひたむきに願ひ続け、やっつけていきます」。
一点の迷いもない表情で語った藤本力士。目指すは「故郷の子どもたちに勇気を与える関取」だ。
「故郷が自分の励みであるように、故郷の人たちが自分のがんばりを励みにしてもらえるような姿を見せたいです。『無理だ』と思ったらその時点で終わり。2007年は勝負の年です」。
一瞬の駆け引きで勝負を決める「先手必勝の相撲」を目指す藤本力士。九州場所を終え、今までこだわってきた正攻法の相撲に「勝ちへの執念」が加わった。新しい年、彼は幕内上位という目標に向かって、自らを一気に押し上げようとしている。その背には、ピンチの時こそ声を張り上げる「福智の声援」が、追い風となって届くはずだ。

年々体大きくっている藤本力士、父の経営する食味倶楽部「藤」で親方の化粧まわしを戴けた初土俵の写真をバックに。